



B&Gスポーツ大会北海道大会

「水上の部」開催!!

7月29日(水)、瀬棚港においてB&Gスポーツ大会北海道大会「水上の部」が開催され、全道にあるB&G海洋センターに所属している10チーム総勢98名が参加して「カヌー競技」「ローボート競技」「OPヨット競技」が行なわれました。せたな町B&G海洋センターからも16名が参加し、「ローボート競技」では男女とも準優勝するなど健闘しました。



プリズム

暑い夏を覚える間もなく朝夕には早や秋風を感じる頃となりました。町内各地区での夏祭り、各種イベントが繰り広げられました。が、秋祭りを控えた地域では、笛や太鼓、鐘の音、踊りをはじめ山車の準備と賑々しくなっております。

真駒内神社の例祭は九月十五日で、今も賑やかに行われるが、創立当初から現在のところに遷されるまでの四十年余りは、今の徳島水門の近くにあり、移住者の多くは四国地方ということもあって、徳島の風習がかなり多く取り入れられ、明治から大正にかけて、いまでは見られない祭礼行事があった。

唐破風造り、四本柱、土台回りに丈夫な角材を用い、丸太を切って鉄輪をはめた車を四つ付けた「だんじり」を作り、笛・太鼓・大鼓(づつみ)・小鼓・鉦(かね)の鳴り物を各二、三人ずつ付け、十数人が曳き、神社から馬場と称する道をねり歩いた。

―(昭和五十六年発行・北槍山町史から)

その後間もなく、「だんじり」は「花山」に変わり、お囃子は今と同様であったと記されており、その他に人形芝居や花相撲、剣道の試合などが賑やかに催されていたようです。

未開の地に鋤を入れ先人は、郷里の神社の分神をはじめ、山神・水神・地神をまつり、開拓の守護神とした祭礼も戦後の国情や価値観の多様化、精神文化の変遷を経て、様変わりを呈しています。

ともあれ、少子高齢化の課題や合理主義、物質文化が進展していく社会にあっても祭礼が住民の日常生活に息づく不易なものとして継がれていくことを願うばかりです。



せたなっ子を育てる健全育成事業（児童生徒の宿泊研修事業）

『フロンティア・アドベンチャー』



8月5日(水) ~7日(金) 2泊3日の日程で、せたな町児童生徒の宿泊研修事業「フロンティア・アドベンチャー」が実施されました。

研修は、札幌市・留寿都村を研修地として町内小学生24名、高校生サブリーダー3名が参加し、各班ごとに企画した班別企画研修やプロサッカー観戦（コンサドーレ札幌 対 アビスパ福岡戦）、札幌ファクトリー施設内におけるエネルギーシステムを学ぶ研修などを中心に行われました。

研修当日は天候にも恵まれ、日常体験する機会の少ない都市での生活を堪能しながら、たくさんの友達づくりをすることができ、夏休み期間中のいい思い出となりました。

せたなっ子を育てる健全育成事業（スポーツ実技講座） 少年少女水泳教室



北檜山区内の小学1・2年を対象とした水泳教室を、8月3日(月)～7日(金)までの5日間、せたな町民プールにて行いました。

水泳の初心者を対象にして行いましたので、最初は水に慣れない児童や、恐る恐る顔を水に付ける児童もありましたが、5日間の教室を終える頃には、ビート板で25m泳ぐ児童の姿も見られました。まだまだ暑い夏、水の事故に気をつけて、元気にプールや海で泳いでほしいものです。

